

令和2年度

石井中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生徒自ら考え、楽しく・わかる授業作り
- 家庭学習習慣の定着

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や生徒・教員へのアンケート等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的事項を理解しようと努める生徒が多い。 ●既習事項の確認や反復練習が少なく、習熟を図ることが不十分である。 ●テスト後の復習等が不十分であり、自主的な取組には至っていない。	・授業に目標をもって臨み、学んだことを習熟している。 ・毎日、家庭学習の時間を確保し、予習復習を習慣化している。	・授業の復習となる課題や反復を伴う課題を課し、それらの確認を丁寧に行う。 ・テスト後の復習等の重要性を理解させ、自主ノート等に復習することを習慣化させる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○難しい課題に対して、頑張ろうとする生徒が多い。 ●発展的内容に対してあきらめてしまう生徒もいる。 ●自分の考えや意見を表現することに苦手意識をもつ生徒も少なくない。	・言語能力を高めていく。表現が工夫できる。理由が述べられる。思考の過程を説明できる。	・教科・領域を問わず、多様な活動形態を取り入れ、伝え合う活動を積極的に設定する。 ・考え方や解き方、根拠を問う問題を定期テストに取り入れる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○チャイム着席・授業準備等、学習マナーが身につけている生徒が多い。 ○話し合い活動の重要性を認識している生徒が多い。 ●自ら疑問や課題をもって授業に臨んだり、進んで発表したりする生徒は少ない。	・始業時の準備を徹底し、授業中のルールを守り、周りとともに学び合える。 ・なぜだろう、どうしてだろうという課題意識をもって授業に臨む。 ・自分の考えをもつことができる。	・ニュースを取り入れたり、読書に親しんだりする場面を増やし、生徒の興味関心の幅を広げる。 ・生徒とめあてやふり返りを共有し、授業に主体的に取り組もうとする意識を高める。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

